

令和6年度第2回東北森林管理局入札等監視委員会 審議概要

(ホームページ掲載日：令和6年10月7日)

開催日及び場所			令和 6 年 9 月 26 日(木) 東北森林管理局 2 階大会議室		
委員			伊勢 昌弘 (弁護士) 河野 隆治 (公認会計士) 生内 克史 (ジャーナリスト)		
審議対象期間			令和 6 年 4 月 ～ 令和 6 年 6 月		
審議対象案件			504 件 うち、1 者応札案件 188 件 		

	意見・質問	回答等
委員からの意見・質問、それに対する回答等	○調査・設計等業務では落札率90%以上は約3割となっているが、他の業務では90%以上の落札率は約7割以上となっている。調査・設計等業務の落札率については以前からこういった低い傾向なのか。	○調査・設計等業務については、特に競争が激しいため他の事業より落札率が低くなる傾向がある。
	○契約等級別の平均落札率で造林事業のD等級が100%となっている。これはD等級の事業が何件あつての100%なのか。	○造林事業のD等級に該当する事業は、資料番号No.92の1件のみであり、落札率は99.8%となっている。四捨五入の関係から100%としているものである。
	○資料番号No.255で樹木採取権運用協定書に基づく随意契約という特殊なものと思われるが、そもそも樹木採取権という制度がどういったものなのか、制度と随意契約の関係を説明願いたい。	○樹木採取権については、ある一定期間、一定区域の中で安定的に樹木を採取できるという制度であり、協定を結んだ業者が伐採する権利を持つもの。この造林の契約は、制度の中で事業の効率化という面からも協定相手方が伐採した後に造林も進めてもらうというものであり、随意契約となっている。
	○資料番号No.500のレーザー計測について、これは遠野市が行っているもので国有林も一緒に計測してもらったというのか。 その場合、価格はどう算出しているのか。	○事業の効率化という面で、遠野市とあらかじめ協定を結んだうえで、遠野市において民有林、国有林一体で事業を発注しており、国有林部分に関しての費用負担をしているもの。 民有林と国有林の面積割合から按分して国有林側の負担額を算出している。
委員会による意見の具申又は勧告の内容	令和6年度第1四半期について、おおむね適正に行われていたものと判断する。	
[これらに対し部局長が講じた措置]	該当なし	

事務局：企画調整課